実践報告

グローバル人材育成事業に伴う短期受入プログラム(シベリア連邦大学)の教育実践報告

国際関係学科　東　弘子

1. プログラム実施の経緯と概要

1.1　経緯

「シベリア連邦大学短期研修受け入れプログラムー現代日本社会と文化を学ぶー」は、2012年にシベリア連邦大学と愛知県立大学が学術交流協定を締結したことに伴い、国際交流推進委員会(シベリア部会)からの提案により 2013 年夏期に実施することが決定し、日本学生支援機構の「平成 25 年度留学生交流支援制度短期受入れ」(短期研修・研究型)プログラムとして採択されたものである。

通常の学期中に行う半期間または 1 年間の交流協定大学間の交換留学制度は、すでに長年にわたり本学において実施されており、毎年 10 名～15 名程度の交換留学生を受入れてきているが、短期受入プログラムについては、過去に2回の実施経験があるものの、国際交流室が設置される以前でもあり大学組織としての受入れ体制が整わない部分があり、多くの課題を残してきた。今回は、2012 年度より開始した文部科学省グローバル人材育成推進事業の中で、短期特別受入プログラムの本格的な体制作りが大きな課題となっている中、モデルケースとしての役割を担うものでもあった。

1.2　開始までの課題

協定文書の付属書において、集中プログラムについては定員を12名以内と定めた。複数クラスの運営は困難であることと、学内宿舎の収容人数の都合からである。定員を超える応募者がある場合、本学の側で準備したテストによって選抜することとし、2013年1月に応募を開始した。応募者は 11 名であったため選抜の必要はなかったが、日本語力や留学志望動機などの確認のためテストを実施した。テストの項目としては、文法、語彙、漢字、読解、作文(日本留学で希望することのエッセイ)である。実力をはかるため、時間を 90 分と定め辞書なしで実施するよう指示をし、解答は画像ファイルでシベリア連邦大学のスタッフから送付された。その後 1 名が退学となったため、10 名の留学生が決定した。シベリア連邦大学にとって、本学は初の日本の協定大学であり、留学への期待は大きなものであった。例として、テストにおいて書かれたエッセイを、1 編、紹介しておく。

「子どものころから、イラストレーターになりたかったです。日本現代画家の絵を見るたびに、励ます。しかし今でも絵を書くことまだまだです。だから、日本文化の近くになるために、日本語を勉強することにしました。愛知県立大学へ勉強に行くことを知ていた時本当にうれしくなりました。日本人の考え方をよく分かりたい。」

プログラムを計画するにあたり、講師 3 名(いずれも本学で 5 年以上留学生教育に関わってきている非常勤講師)を決定し、受入プログラムの実施責任者である筆者とその 3 名とで、今

回のプログラムのコースデザインの策定とともに、今後の短期受入プログラムもしくは交流協定の交換プログラム、または、留学生と本学学生との交流事業などにおいて、だれもが活用できる「情報アーカイブ」が蓄積できるようなしくみを考案することとした。プログラム開発に当たっては、初回のケースということで、グローバル人材育成事業から経費面で多くの協力を得た。準備にあたり、2012 年 2 月から上記メンバーで打合せを重ねたが、受入がシステム化されていないことで、国際交流室や全学の事務組織との情報共有のありかたや経費積算、その連絡方法など、事務的な判断の担当などにおいて、多くの課題が見つかった。

【開講式】

今回のプログラムには学外の研修も多く含まれており、そのための交渉や連絡のあり方についても組織的な分担が必要であったが、実際にはプログラムを実施しながら担当を決めて行かざるを得ないような状況であった。今後解決すべき具体的な課題については、本稿の3．にまとめておく。

1.3 概要

本プログラムの概要は以下の通りである

日程:2013 年 7 月 1 日(月)--8 月 11 日(日) 6週間

受入学生:シベリア連邦大学文学言語学部日英学科 10 名(3年生8名、2年生2名 全員女子)

引率スタッフ:シベリア連邦大学日本センターの職員 1 名

講師:米勢治子、中道一世、黒野敦子(3 名ともに本学非常勤講師)

プログラム実施教員:シベリア部会－東弘子(実施責任者)、半谷史郎

運営スタッフ:国際交流室－吉川雅博(国際交流室長) 、桑村昭、松崎久美、 学務部長-吉田桂一、学生支援課-ロベル智子 ほか

【講師 3 名】

オブザーバー:加藤史朗(本学名誉教授)

授業協力教員:E・W・ポープ、亀井伸孝、宮谷敦美、半谷史郎

協力学生(授業活動などのボランティア):計 40 名(外国語学部、日本文化学部学生)

協力学生(J カフェ):「日本語教育実習」履修者 19 名、SA(Student Assistant)4名

プログラム参加費:11 万円／人

評価:授業へのとりくみを中心に、記録と成果をもとに、講師 3 名が総合評価

プログラム内容

(1)「日本語」の授業:40 コマ　4つのプロジェクトを実施

A:5つのテーマ(シベリアと日本の違い:大学生活、学校制度など)について、日本人学生と討論し、作文を書く → 文集の作成

B:京都旅行の計画と「しおり」の作成

C:留学中の学習や生活の日記を記録(インターネット・ポートフォリオにアップする)
→ 海外の日本語学習者に県大の留学プログラムを紹介する口頭発表

D:プロジェクトA, B, Cをもとにポスター作成
→ オープンキャンパスで高校生にむけて発表

(2)通常授業への参加による交流:6 コマ(うち 2 コマは留学生対象)

【資料1－1】学生に配布したオリエンテーション資料

JAPANESE　2013 in Aichi

愛知県立大学

シベリア連邦大学短期研修受入プログラム　－現代日本社会と文化を学ぶ－

オリエンテーション

1．プログラム概要

(1) 日本語の授業は 40 コマ（1 コマ＝９０分）です。日本人学生と交流する時間（　）もあります。
(2) 大学の授業 6 コマ（★）に参加します。
(3) 日本の社会や文化を学ぶために見学や旅行、ホームステイをします。
(4) 日本人学生の企画による日本語交流活動「Ｊカフェ」に参加します。

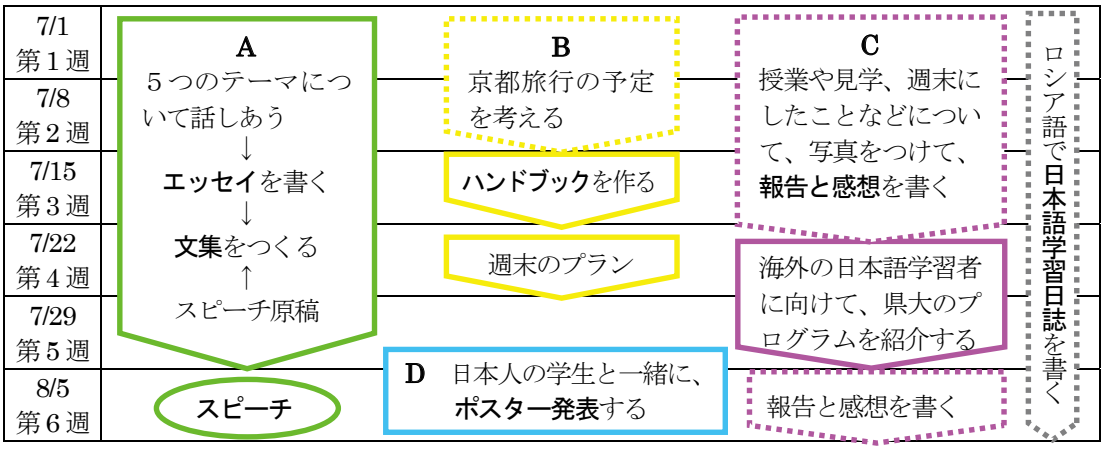
2．日本語クラス

・日本語の授業では、４つのプロジェクト（A～D）を進めながら、総合的な日本語能力を身につけます。

プロジェクト A	5 つのテーマについて話しあい、それを基にエッセイ（作文）を書きます。宿題として、作文を書いたり、書きなおしたりして、提出します。書き溜めたものに写真をつけて文集にします。
プロジェクト B	京都旅行のためのハンドブックを作ります。宿題として、資料を集めたり、調べたりし、自由時間の使い方について計画します。
プロジェクト C	宿題として、参加した授業や見学、週末の過ごし方について、報告と感想を書き、写真をつけて、manaba にアップします。授業では、書きためたものを使って、最後の発表に向けた活動を行います。発表は海外の日本語学習者に県大のプログラムを紹介することを目的とします。
プロジェクト D	日本人の学生と一緒に、プロジェクトAを中心に、BやCも活用して、ポスターを作り、オープンキャンパスで発表します。発表は日本の高校生に留学生のことを知ってもらうことを目的とします。

・日本語学習日誌：毎日、その日の活動を振り返り、今日何をしたか、何ができるようになったかをロシア語で書きます。

【プロジェクトの流れ】



＊ ━━(実線)は、授業で扱うもの。┅┅(破線)は、宿題として自主的に行うものです。
宿題は、２部プリントアウトして、１部は自分用にファイルします。

【資料1－2】学生に配布したオリエンテーション資料（つづき）

JAPANESE　2013 in Aichi

３．スケジュール

・日本語授業の教室：文化交流室Ａ　　7/3 水, 7/5 金：文化交流室Ｂ
・大学授業の教室　★１（中道）7/5 金３限：H408　★２（ポープ）7/8 月１限：H005
★３（中道）7/12 金３限：H408　★４（亀井）7/15 月５限, 7/18 木２限：F211
★５（宮谷）7/16 火１限：H202　★６（半谷）7/23 火４限：B204
・Ｊカフェの教室：ｉCoToBa 前に集まります。
＊見学の日は文化交流室Ａに集合してから出かけます。見学後も文化交流室Ａで振り返りを行います。

	１限 8:50～10:20	２限 10:30～12:00	３限 12:50～14:20	４限 14:30～16:00	５限 16:10～17:40	備考（びこう）
7/1 月	9:30 開講式・オリエンテーション		PC研修	学外案内		
7/2 火	日本語1（米勢）	日本語2（米勢）				
7/3 水	日本語3（米勢）	日本語4（米勢）	歓迎会モリコロパーク	Jカフェ：AB		交流室Ｂ
7/4 木	Jカフェ；A	Jカフェ：B				
7/5 金	日本語5（中道）	日本語6（中道）	★1（中道）			交流室Ｂ
7/6 土 7/7 日						
7/8 月	★2（ポープ）	日本語7（米勢）	日本語8（米勢）			
7/9 火	8:50 陶磁美術館（ソックス持参）					
7/10 水	日本語9（米勢）	日本語 10（米勢）	Jカフェ：A	Jカフェ：B		
7/11 木	Jカフェ：B	Jカフェ：A				
7/12 金			★3（中道）	日本語 11（中道）	日本語 12（中道）	→ホームステイ
7/13 土 7/14 日	ホームステイ					
7/15 月	日本語 13（米勢）	日本語 14（米勢）			★4（亀井）：B	
7/16 火	★5（宮谷）	日本語 15（米勢）	日本語 16（米勢）			
7/17 水	9:30 長久手市立南小学校／エコハウス					
7/18 木	Jカフェ：A　B→	Jカフェ　★4(亀井)	←A			
7/19 金	日本語 17（中道）	日本語 18（中道）				
7/20 土 7/21 日	8:00 名古屋駅ナナちゃん人形前集合→京都旅行					
7/22 月	日本語 19（米勢）	日本語 20（米勢）				
7/23 火	日本語 21（米勢）	日本語 22（米勢）		★6（半谷）		
7/24 水	日本語 23（中道）	日本語 24（中道）	Jカフェ：B	Jカフェ：A		
7/25 木	Jカフェ；B	Jカフェ：A		【あいちの会】		
7/26 金	8:50 豊田市防災学習センター／トヨタ自動車工場					
7/27 土 7/28 日						
7/29 月	日本語 25（米勢）	日本語 26（米勢）				
7/30 火	日本語 27（米勢）	日本語 28（米勢）				
7/31 水	日本語 29（米勢）	日本語 30（米勢）				
8/1 木	日本語 31（黒野）	日本語 32（黒野）				
8/2 金	日本語 33（中道）	日本語 34（中道）				
8/3 土 8/4 日						
8/5 月	日本語 35（米勢）	日本語 36（米勢）				
8/6 火	日本語 37（米勢）	日本語 38（米勢）				
8/7 水		11:00 ポスター発表		14:00 ポスター発表		
8/8 木	日本語 39（黒野）	日本語 40（黒野）				
8/9 金	10:00 修了式・スピーチ		←多目的ホール／　修了パーティー（生協）			→ホームステイ
8/10 土 8/11 日	ホームステイ					
8/12 月	帰国準備					

(3)学外活動:社会見学、小学校訪問、旅行、ホームステイ
(4)日本語教育実習の学生によるテーマ型交流活動「Jカフェ」への参加
そのほか、学生の学習管理と記録のために、ロシア語での日誌を書く。
修了式で留学のまとめとしてのスピーチをする。

プログラムのほか、グローバル人材育成推進事業の中で設置された「多言語学習センター(通称 iCoToBa(アイコトバ))」のイベントとして学生主催の歓迎パーティー(於モリコロパーク)や、「日本とロシアの友好親善を進める愛知の会」の呼びかけによる懇話会など、多彩なイベントが盛り込まれた。学内授業にとどまらず、学内外での日本人との交流、学外で日本社会にふれる活動を多岐にわたり取り入れたことで、「現代日本社会と文化を学ぶ」といったテーマにふさわしい内容となったが、行事を詰め込みすぎた感も否めない。2013 年夏は例年よりも気温が高かったこともあり、見学後に大学内で行う予定だったフィードバックまで体力が持たないといったケースもあり、計画にもう少し余裕をもたせるべきであったというのが 6 週間のスケジュール全体においての反省点である。

前掲の**【資料 1】**は、学生に配布したオリエンテーション資料の一部である。

2. プログラムの教育的特徴

以上のように、多岐にわたる活動を含むプログラムであるが、いくつかの視点からその特徴をまとめ、報告する。

2.1 日本人学生との交流 ー授業内討論など

日本語授業の中での日本人学生との討論は、以下のようなテーマで行われた。

7 月 5 日(金)1 限【中道】:大学生活(シベリアと日本)
7 月 10 日(水)1 限【米勢】:シベリアと日本(地理的なものや生活習慣など)
7 月 16 日(火)2 限【米勢】:学校制度(シベリアと日本)
7 月 24 日(水)1 限【中道】:週末のプランを考える
8 月 1 日(木)1 限【黒野】:日本の思い出の品

5 名から 10 名程度の日本人学生との討論をふまえ、作文の課題につなげた。また、「学校制度」に関する討論の直後に学外の小学校訪問をする、週末観光のヒントを直前に日本人学生から得る、といった形でより有機的な学習へつなげられるよう工夫もした。

学生たちは、同じ世代の「大学生」として、違いや共通点に敏感に反応し、有意義な議論ができ相互理解が深まったようである。

ここでは、「大学生活」と「シベリアと日本」との討論をふまえた留学生の作文2篇を紹介しておく。

ロシアと日本の大学生活

V.

一般的に大学生活は面白くて、とても楽しいです。学生たちは将来生活のために必要なことを学んで、一緒に色々なことをします。しかし、大学生活は国によって少し違うと思います。ですので、ロシアと日本の大学生活を比べたいと思っています。

一番大切な問題はアルバイトです。ロシアでは学生たちは毎日とても忙しくて、ひまな時間があまりありません。時間があると、アルバイトをします。しかし、ロシアでは日本よりアルバイトを探しにくいです。半日仕事があるけれども、時々学生はその仕事ができません。例えば、ある仕事をするために卒業証書をもらわなければなりません。そして、時々学生が仕事をしたら、授業を休んで始めます。ですので、これはいたちごっこだと思います。仕事をやりにくいですが、そうすると、勉強の問題が起きます。

しかし、日本の事情はとても違います。日本では若者が学校のころからアルバイトをよくします。喫茶店やスーパーや食堂や本屋などでよく働きます。日本の学生たちは一所懸命頑張って、勉強と仕事熱心になりますから、とても疲れます。ですので、朝に時々眠くて、積極的ではありません。

私にとって、日本の大学生活はロシアと比べて、もっと面白いです。学生たちはサークルに入ったり、カラオケに行ったり、先生と会ったりします。ロシアでサークルがあまりありませんから、学生が何かをやりたいとき、自分で有料コースに行きます。

私にとって、機会があったら、ぜひ日本の大学で勉強したいと思います。

お互いに知っていることと知らないこと

L.

私たちは日本語を勉強する留学生として日本について色々なことを知っていました。例えば、日本の伝統的な料理や習慣や天気についてよく聞きました。一方で、今日の日本人はロシア語を勉強していないのに、ロシアに関係があることを結構言えました。

ですが、間違いもありました。前に私は他の外国人が一般的にロシアやシベリヤの位置をよく知っていると思いましたが、今日は、彼女たちは本当に困りました。ですので、日本の学生にたくさん教えたいと思いました。

ですけれども、彼女たちはロシアの伝統的な料理や有名なロシア人や時差が分かったので、うれしかったです。そして、ロシアの文化とロシア人の生活に興味がありそうなので、もっと詳しく知ってほしいです。

ロシアと日本の文化も生活も異なりますが、ロシア人と日本人の性格は少し似ているかもしれません。ですので、私たちは日本に興味を持っていて、日本人は私たちに優しくしています。もちろん、時々日本人はロシアについて考えると、ソ連時代を思い出して想像するので、今のロシアとはイメージが違います。いい感情を持って色々なことについて日本人と一緒に話したいです。

また、日本語教員課程の科目「日本語教育実習」の授業課題の一環として、実習生たちが、気軽に学生同士で話し合う機会としての「J カフェ」という会話活動を行った。こうした活動がスムーズに行えるよう、iCoToBa の歓迎パーティや初日ガイダンス時のサポートにもボランティアとして参加し、知り合いになっておくことも促した。10 名の留学生は、5 名ずつのA・Bチームと小グループに分けてあったので、そのチームに従って 1 回に 5 名ずつの参加とし、実習生の方も 5-6 名で対応した。活動は全 13 回。テーマは、和紙作り、折り紙、言葉遊び、日本ふしぎ発見！、好きなことばと書道体験、ホームステイ体験、言葉って面白い！、占い、欲しいもの、子どもの頃に読んだ絵本・昔話、などである。うち 1 回は、亀井教員の授業でのアフリカ料理の活動と合流した。

【アフリカ料理（お味は・・・）】

上記のほか、ポープ教員の英語で行う「民族音楽研究」、宮谷教員の「研究概論（国際文化）」でのディスカッション、半谷教員の「ロシア政治史」など通常授業への参加を通して、学習をしたり日本人学生と交流を行ったりした。

【ロシア政治史の授業風景】

「ロシア政治史」での様子をある留学生は「まず、日本人の学生の質問に答えて、自分の感想やロシアについて述べました。そのあとで、半谷先生はクラスノヤルスク市やクラスノヤルスク地方の有名な人について詳しく講義しました。」と報告しており、日本で、日本語で、自らのことついて説明するまたとない機会となったことがわかる。

2.2 日本文化体験 －地域の市民や留学生との交流を通じて

半期間および 1 年間留学している特別聴講学生対象の「日本事情」（中道講師担当）の授業と合流し、長久手市の協力を得て、以下のような日本文化体験を実施した。

7 月 5 日（金）3 限【中道】：七夕飾りと色紙作り

7 月 12 日（金）3 限【中道】：浴衣着付け体験

中国、韓国、ブラジル、フランス、ドイツ、インドネシアなど異なる国からの留学生との交流の機会にもなった。

2 回とも 10 数名の長久手市民ボランティアにお世話になりながら、講師による七夕や着物についてのレクチャーもおこなった。

【七夕飾り】

【浴衣着付け体験】

【色紙作り】

また、7 月 12 日（金）～14 日(日)および 8 月 9 日（金）～11 日(日)、長久手市内において、それぞれ 2 泊 3 日の週末ホームステイ体験もおこなった。ロシアでは、ホームステイという制度はなじみが薄いらしく、対面式の後、緊張しながら各家庭に引き取られていった。不安をよそに、週末には富士山や水族館、名古屋の繁華街、海などの観光地に日帰り旅行に出かけたケースも多く、いろいろともてなしてくれる日本の家庭の雰囲気を味わったようである。

【ポストへ投函】

1 回目のホームステイの直後の授業で、ホストファミリーへのお礼状を書くという課題があり、楽しい思い出のお礼をしたためて、それぞれの家族に好みの切手を貼って郵便で送った。

上記のほか、陶磁美術館での作陶およびお茶室体験もあり、帰国直前に焼き上がった湯呑み茶碗と皿は、留学の記念の土産品となった。

【絵つけした皿と湯呑】

【お茶室作法体験】

2.3 学外見学

学外見学は以下の 3 日で、5 カ所を訪問した。

7 月 9 日（火）午前【中道・桑村】午後【中道・東】：愛知県陶磁美術館（2.2 で言及）
7 月 17 日（水）午前【米勢・中道】：長久手市立南小学校
午後【米勢・中道・東】：ながくてエコハウス
7 月 26 日（金）午前【黒野・桑村】：豊田市防災センター
午後【黒野・桑村】：トヨタ自動車工場

7 月 17 日の長久手南小学校訪問では、6 年 1 組から 4 組までの 4 クラスに分かれ、小学校 6 年生の書写の授業および国際教育の授業に参加し、小学生とともに給食を食べた。すでに大学で日本人学生と日本の学校制度について討論しており、実際に日本の小学校の施設を見たり小学生とふれあったりすることは、稀な経験でもあり、学生たちには大変好評であった。筆者は当日同行できなかったが、後日の訪問で学校長と面談した折りに、小学校としても、こういった留学生との交流活動を今後積極的に行いたいという希望をうかがった。双方にとって利益となるこうした地域との交流活動が、今後、短期受入プログラムのみならず、学部留学生や特別聴講学生にも機会として与えられることを強く望むものである。

【小学校へのお礼の色紙】

小学校訪問の後に学生の書いた作文を、1 編あげておこう。

ロシアの小学校制度と日本の小学校制度について

Y.

今週、日本人の学生と学校制度について話して、長久手市立南小学校を訪問しましたので、日本の小学校制度についていろいろな面白いことがわかりました。

ロシアの小学校と日本の小学校の違うことと言えば、一つ目はお昼ご飯です。ロシアでは、生徒が一緒に食堂で食べています。それに対して、日本で給食というシステムがあります。生徒は教室に集まって、当番の人から食べ物をもらいます。一般的に、ロシアの小学生と日本の小学生は同じ科目を学んでいます。しかし、驚いたことに、野菜を育てることや家庭科という科目があります。そして、ロシアでも日本でもクラスの人数は25人から30人までです。けれども、ロシアの小学校に比べて、日本の小学校では授業が8：50から始まります。

さらに、プールと兎とにわとりを飼う場所があります。少しうらやましいです。小学校を訪問したとき、書道を練習して、小学生はみんなすごく上手でした。

日本の小学校の生徒の生活はとても楽しいと思います。いろいろなことをやる可能性が多いですから。さらに、日本人の子供は人当たりが良くて、明るくて、そして自主的なところがあります。小さい大人みたいです。本当におもしろかったです。

これ以外の作文にも、日本の小学生は自立している、先生が優しい、ロシアの先生はとても厳しい、といった意見が多く書かれていた。日本では、「昔と比較して現代の子どもは自立していない」という印象が多いのではないだろうか。外国人留学生が注目する点について、さらに学生同士で討論できると良いと感じた。

また、同日午後に訪問した長久手市の環境施設「ながくてエコハウス」では、長久手市長のお出迎えにより、留学生たちは「友好市民」の認定を受けた。その後、環境施設の説明、施設見学をした。その様子は、中日新聞なごや東版（2013 年 7 月 18 日）に掲載された。

2013/7/18 中日

「長久手市民 温かい」

ロシアの留学生 市長訪問

長久手市の県立大に短期留学しているロシアのシベリア連邦大学の学生十二人が、同市の環境施設「ながくてエコハウス」を訪れ、吉田一平市長にあいさつした＝写真。

同大はロシア中部にある総合大学。外国語教育が盛んな県立大と昨年大学間協定を結び、本年度から学生の交換留学が始まった。

吉田市長は、留学生らに対し「ズドラストビーチェ」（こんにちは）と、ロシア語であいさつした後、「長久手の夏を楽しんでいって」と呼び掛けた。学生は「長久手は市民の心が温かいですね」と感想を話していた。

学生たちは六月二十日に来日し、八月十二日まで滞在する。大学で日本語を学ぶだけでなく、浴衣の着付け体験をしたり、長久手市南小学校を見学したりし、住民との交流や日本文化の体験も予定している。（原田晋也）

【中日新聞記事　名古屋東版 2013/07/18】

7月26日(金)の豊田市防災センターでは地震の備えについて、トヨタ自動車工場では生産ラインを見学し、いずれもロシアでは見ることのできないもので、興味に個人差はあったものの、見学は満足のいくものであった。しかし猛暑の中、特に工場はエアコンが効かず、体調を悪くした学生もいたことは、大きな反省点である。

【防災センターの掲示】

【トヨタ自動車工場見学記念撮影】

2.4 旅行計画

7月20日(土)、21日(日)、1泊2日の高速バスを利用して京都旅行に行った。本プログラムでは単なる「観光旅行」ではなく、日本式の「修学旅行の自由行動」の考え方をとりいれ、3つの小グループに分かれ、それぞれの観光コースを自分たちで設定し、「旅行のしおり」をつくるというプロジェクトとした。旅行には、8月にシベリア連邦大学の短期留学プログラムでロシアに留学する予定である日本人学生も同行することとし、旅行計画の段階からサポートに入った。

【金閣寺にて】

日本語の授業内で、日本の中学の修学旅行のしおりを見せたものの、学生たちの反応は、なぜ自分たちで詳細に計画を立てなければいけないのか、不満な様子であった。彼女たちは、京都に行ければそれで十分だと考えていたのである。

しかし実際に、日本的に「下調べ」をしてしおりを作ったり、計画にのっとって行動することによって、普段の自分たちの旅行とは異なる充実した視点が得られたという。

【京都旅行しおりの一例】

旅行直後の、京都旅行の振り返りを行う日本語授業では、同行していない授業担当の米勢講師に自分たちの旅行コースについて説明した。

単に日本の伝統的な街の訪問だけでなく、自ら検索し、行く場所を決定する作業を通して、日本語の運用能力も日本文化に対する関心も向上していくのである。

【授業時に作成した説明資料】

2.5 オープンキャンパスという発表の場

8月7日(水)は、主に外国語学部志望者を対象とした本学のオープンキャンパスであった。筆者は、企画の早い段階から、本学学生以外の日本の若者(高校生)とふれあえる絶好の機会ととらえ、また、本学にとっても国際交流を推進していることが一目瞭然にアピールできると考え、儀式としての修了式だけではなく、開かれた場所でのポスター発表を留学プログラムの学習成果を披露する場所に設定したのである。

来学者に渡す資料の封筒にチラシを同封し、「シベリアからの留学生に、日本の魅力、愛知県立大学の魅力を聞いてみませんか？留学生と日本語で話をするチャンスです。」といったフレーズで宣伝したところ、当日は訪問者が途絶えることなく、3時間で100名をゆうに超える来室があった。

【オープンキャンパスチラシ】

高校生や保護者の感想は、「初めてロシア人と話をした」「日本語がとても上手でびっくりした」「みんなきれい。」など、多くは素朴なものであったが、愛知県立大学が外国への扉となることが強く印象づけられたのではないか。

留学生たちも、高校生との会話において、自身が「先輩」としてアドバイスできることから、生き生きとした表情で、笑いあいながら会話が弾んでいた。留学生・高校生双方にとって貴重な経験となったであろう。

【展示の説明】

ロシアにはオープンキャンパスのような制度はなく、彼女たちは、こうした日本の大学行事についても全く知らなかった。事前にどのような趣旨であるかを説明したときには、怪訝そうな顔をしていたものの、いざ展示の準備を始めると、熱心に本学の良さを訴えるポスターを作成していた。

プログラムとしては、教室でのポスター発表のみ予定していたが、入試広報室から「講堂の外国語学部の説明会の時間に、シベリアの学生に、日本語でスピーチをしてもらうことはできるだろうか。」と、事前に打診があった。

【ポスター1】

【ポスター2】

そこで、オープンキャンパスの 1 週間ほど前に、希望者を募ったところ、級長を務める 3 年生の学生と、2 年生の 1 名が立候補した。

二人は収容人数900 名、満席の講堂で、原稿の紙も参照することなく、日本についての印象、日本語学習の動機、県立大学の良さ、留学で学んだことなど、立派にスピーチをした。大学からの要請を受けて、十二分に役割を果たした。得がたい、また忘れがたい経験となったであろう。

【講堂でスピーチする二人】

このようにオープンキャンパスへの参加は、大成功だったと言える。短期受入プログラムにかかわらず、今後、オープンキャンパスでは、今回同様、留学生にも活躍の場を提供してはどうだろうか。

2.6 学習ポートフォリオシステム manaba の活用

本学では、グローバル人材育成推進プログラムの中で、インターネット・ポートフォリオシステム「manaba（マナバ）」を導入している。

（参照 http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/manaba/index.html）

本プログラムでは、学生の授業や課題管理のために、教員と学生を登録したコース「2013 シベリア短期受入プログラム」を設定し、授業課題の提出管理だけではなく、学生それぞれにブログのような形式で「日記」を書くことを義務づけた。スマートフォンなどの携帯端末で情報をアップすることに慣れている学生たちは、日々の経験を写真のアップとともにつづることを楽しんでいるようであった。新鮮な経験を「書きたくてしかたない」といった筆致で毎日記録していた。ここに、manaba に学生がアップした写真のいくつかを掲載しておく。たとえば、BBQ パーティの感想としては以下のような記述があった。

【歓迎の BBQ パーティー】

「私たちを県大の学生は BBQ へ誘ってくれた！正直にいうと、最初、ちょっと恥ずかしかったけど、みんなさんはとっても優しくて、親切で、楽しい人たちだから、すぐ仲良くなった！！みんなさん、ありがとう！～～本当に楽しかった～ ^＿^ 」

ほかにも、日本語教育実習の「J カフェ」活動終了後に、留学生からの希望を聞いて、学生が部活動(弓道部)の様子を見学に連れて行ったことなども、感謝の気持ちとともに報告がアップされていた。教員側は、こうした記録を見ることで、授業外の学生の活動や、交友関係などを知ることができ、学生管理としても役に立った。学生たちは予想以上に、週末などに積極的にでかけていることにも驚いたが、なにより、本学学生たちと良好な関係を結んでいることがわかり、受入プログラムを実施したことの意義を確認できた次第である。多くの留学生が、県大生は親切、優しいと、くりかえし記している。実際、筆者は、これまでの交換留学生のプロジェクトワークの成果発表会などでも、同様の意見を多く聞いてきている。本学への留学の特徴、魅力として、こうした本学学生の「親切さ、素朴さ、おもてなしの精神」といったところを、国際交流のアピールポイントとして、

【宿舎に日本人学生を招いてパーティー】

もっと前面に打ち出すと良いと思う。

【弓道部の活動を見学】

【週末観光:モリコロパーク夏祭】

【週末観光:名古屋城】

2.7 教育の成果

上記のような活動を通じ、必要に迫られて日本語を聞く、話す、読む、書くことをくりかえしながら、シベリア連邦大学の留学生は 1.3 で示したA～Dの4つのプロジェクトを完成していった。学生からは、彼らの本国での学習スタイルの習慣から「日本語の授業では、各授業・単元ごとに文法項目や学ぶべき語彙を提示してほしい」といった感想も出たが、それをこなすことを達成目標にしてしまうと、「日本での」プログラムの意義は半減してしまう。現代日本に身を置きながら、日本語の授業での課題はすべて、現実世界に通じる目的を持って使うものであり、こうしたプロジェクト型の学習実践を通じて、日本語力を向上させるという方法が、本プログラムの特徴なのである。ここでの成功体験が、学生のモチベーションと能力を格段に高めることにつながったと言える。

修了式のスピーチは、全員が堂々と自分の言葉で自らの経験と意見を語っていた。来日当初「この留学は日本に来る一生に一度のチャンスかもしれない」と多くの学生が述べていたが、全員が再度の訪日を実現することを考えるようになっていた。留学以前、自分の日本語では本物の日本人には通じないと不安に思っていた学生が、日本語を使って多様な活動をしたことで、大きな自信を獲得したようであった。

【修了式開式の辞(国際交流室長)】

具体的な成果物として、プログラム修了時にできあがった留学生 10 名による「文集」は、全 72 ページにわたるものとなった。宿題の作文や manaba に書きためた日記をまとめ直し、10 名全員が6つの題材で作文を書いた。その題材の目次は以下の通りである。

【スピーチの様子】

1. 自己紹介　　2. 大学生活
3. ロシアと日本　　4. 学校制度
5. 日本・日本人の印象　　6. 私の日本留学(スピーチ原稿)

このうち、スピーチ原稿となった「私の日本留学」について全員分を紹介しておきたい。このプログラムの目的が達成されたことが、これらの作文によく現れている。

私の短期留学

M.

はじめまして。シベリア連邦大学で日本語と英語を勉強している二年生のMです。よろしくお願いします。

私は、大学に入学したとき、日本語の勉強を始めました。私の日本語はまだまだですから、日本に来る前にとても緊張しました。私は日本人が外国人と上手に交流できないと思っていました。そして、日本は現代の国で、どこでも高い建物ばかりあると思っていました。

でも、愛知県立大学に来たとき、皆は親切で、明るい人だと分かりました。最初、皆の日本語は分かりにくかったけど、どんどん慣れました。日本は本当に現代の国ですが、自然はいっぱいで、日本人は自然を大切にします。でも、すべての機械はとても現代の物で、自動的で、使いやすかったから、私は嬉しかったです。

私にとって、一番役に立ったことは日本人の学生との授業でした。色々な話をしたり、お互いに文化について分教え合ったりしました。学生の生活と学校制度について話し合って、日本とロシアに違いがたくさんあると分かりました。日本文化とロシア文化も珍しいですから、文化の話はとても面白かったです。これ以外に普通のお喋りもしました。例えば、週末のプランを書いたり、したことと行ったところについて話したり、したいことと行きたいところの相談したりしました。そして、思い出の品を見せ合いました。ロシア人の学生は日本で買った物を見せて、思い出について言いました。日本人の学生も色々な物を持って来ました。ほとんどすべては子供のころの大事な物でした。

でも、日本人の学生との授業だけじゃなくて、大学の外でもよく会いました。県大の学生と友達になった、嬉しいでした！一緒に遊んだり、カラオケへ行ったり、買い物をしたり、食事をしたりしました。私は本当に県大の学生が好きになりました。いつも丁寧で、笑顔を見せて、手伝ってくれるひとです。これがちゃんと知っているから、幸せです。

私は日本で一カ月半ぐらい過ごしました。日本と日本人について色々なことが分かりました。日本はとても安全な国だと確認しました。日本人はやっぱり暖かい心を持っていて、外国人とうまく交流できます。私はいつか日本へ帰りたいです。そして、日本に住んで、働くのはいいなと思います。

この短期留学は私の一番大事な経験になるはずです。もし、もう一度可能性があったら、私はもちろん県大に来たいと思います。今日、ここにいるのは本当に幸せです。

ありがとうございました。

私の日本留学

Ｔ.

はじめまして。私はＮ・Ｔと申します。呼ばれる名前はＴ.です。私はシベリア連邦大学の三年生です。ここには留学生として来て、今度が初めての日本です。

私が日本語を勉強している理由はアニメとマンガが大好きで、日本の文学と文化が興味深いからです。それに、良かったら、いつか翻訳をやりたいと思います。私はいつか硬い本を翻訳したいですから、日本語がかんぺきに上手になりたいです。そのためにいっしょうけんめい頑張って、他の学生たちと一緒にここに練習しに来ました。

私は日本に来る前に不安をたくさん持っていました。例えば、前に日本人は外国人が好きではなくて、外国人をあまり信じないと聞いたので、とても怖かったです。実は、私はその上に外国人と話すことも怖かったですから、私の日本留学が大変になると思いました。

しかし、日本に来た一日目に、日本の学生が私に話しかけたとき、私は何も考えずに答えました。つまり、皆は私が自分の不安を忘れるほど優しかったので、それは私にとってほとんどきせきでした。私は本当にうれしかったです。

それに、留学の途中でたくさんの場所を訪問したり、たくさん思い出を使ったりして幸せないいことがいっぱいありました。

例えば、留学の見学の一つで私の初めての日本語での本を手に入れました。それはオードリー・ヘプバーンやビビアン・リーなどの女優についての本なので、私にとって興味深いです。私は日本語がまだまだ下手ですから少し難しいですけれど、この本の言葉は私が前に思っていたより簡単です。私はまだ読み始めたばかりなのに、この本はとても面白くて、言葉が難しすぎないですから、私にとって喜びも素晴らしい練習です。

そうして、ホストファーミリーの手伝いのおかげで探していたマンガを見つけました。このマンガは十八世紀のフランスの貴族について物語るので、少し難しいですが、どうやって外国人の言語や話し方などを日本語で表れるのを見ることは本当にすごいことです。それは貴重な経験だと思います。

この留学にはたった一つの残念を持っています。この残念は留学が短すぎたことです。良く考えると、私がしたいものがまだたくさんたくさんあって、もうすぐ帰らなければならないと思ったら、がっかりします。

私はもっとこの優しくて明るい人と話したり、もっと場所を訪問したり、もっとマンガを見つけたり、もっと先生に質問したり、もっと日本語の本を探したりしたいです！

日本は様々で計り知れない国なので、全てを知るために一ヶ月では全然足りないと思います。ですから、何度もここに戻りたいです。シベリア連邦大学と愛知県立大学の関係が素晴らしくなることを心から望みます。

私の日本留学

R.

はじめまして。私はクラスノヤルスク市から来た留学生のR．です。シベリア連邦大学で日本語と英語を勉強して、三年生です。日本に行くのは初めてですが、とても楽しみにしていました。私の趣味は絵を描くことや本を読むことや音楽を聞くことなどです。どうぞよろしくお願いします。

第一印象と言えば、なりた空港から東京まで特急で行ったときに、景色がみどりで、木が高くて、すばらしかったです。空港の近くにあるたんぼを渡っている鶴を見て、びっくりしました。日本はあまり広くない国ですが、自然がすごく豊かなので、うれしいです。

二番目のびっくりしたことは夜が早いし、交通費が高いし、すごく暑いことです。

それに対しても、たくさんのことができて、色々な行ったこともあります。

私たちの留学のプログラムは作文を書くことだけではなくて、日本人の学生とよく交流して、色々なトピックについて話しました。それで、日本人の生活と日本語がもっと上手になったと感じます。日本人の学生の授業に行ったり、伝統的な料理をお互いに作ったり、七夕の準備もしました。そして、色々見学をしました。茶の湯で茶道をしたり、小学校で習字をしたり、陶磁美術館とトヨタ工場を訪問しました。私はロシアで日本の文化を勉強していたのに、今ではこの以上を見聞して、自分の目で見て、とても大切な経験したと思います。

これ以外に、私たちは多く外出ができました。名古屋でよく散歩して、名古屋城や動物園を訪問しました。さらに、京都旅行の前に私は京都がとても伝統的だと思っていたのに、正直に言うと、今ではもっと和洋折衷になったという感じです。洋風の店やホテルやレストランが多いですが、歴史的な寺や神社や建物など残っているのが素敵だと思います。そして、ホームステイのときに、日本の生活と日本人の関係について色々なことが分かりました。

正直に言うと、留学のときに将来の仕事について思いつきました。漫画や本を読むことがとても好きなので、翻訳してみたいんです。

留学は短期でしたが、その経験がとても役に立つと思います。皆さんは私たちにとても親切にしてくれたので、本当にありがとうございます。この一ヶ月半を絶対に忘れません。機会があれば、もう一度日本に行きたいと思います。

わたしの日本留学

Ｏ.

はじめまして、わたしはシベリア連邦大学で勉強するＯです。今年の秋に４年生になります。よろしくお願いします。この愛知県立大学の留学は初めてでした。県大のおかげで、わたしは日本語がもっと上手になったと望みます。

この留学のとき、授業だけでなく、色々で、面白しろい見学と旅行のチャンスをもらいました。料理の授業はもちろん授業の中で一番印象に残っているんです。亀井先生と県大の学生といっしょに料理を作るのはとても楽しい経験になりました。ありがとうございます。２目の授業しかなかったので、ちょっと残念ですね。京都旅行も好きになりました。伝統的なところを訪れて、今、歴史に入れたと言う感じがあります。

言うまでもなく、個人的な見学もありました。長久手と名古屋でたくさんのところに行って、本当に楽しみました。皆さんは色々な場所を教えてくれて、ありがとうございます。

もちろん、生活状態にかんして、本当によかったです。半分伝統的な家に住んでいるのは珍しいチャンスですね。ここでよかったことだけ記憶に残したいと思います。

この一ヵ月半ぐらいで起きたことは全部大事な経験になりました。やさしくて、あかるくて、おしゃれとおしゃべりで、いい人に会って、仲良くしたので、すごくよかったです。正直に言えば、ロシアにあまり帰りたくないです。日本にあったいいエピソードを大変なつかしむと思います。

皆さん、この経験をくれて、本当にありがとうございました。

わたしの日本留学

V.

はじめまして、シベリア連邦大学の三年生です。Vと申します。二十歳です。私の専門は通訳者ですから、日本語と英語を勉強しています。どうぞよろしくお願いします。

日本で短期の留学生として日本語を勉強しています。まず、日本に来たときびっくりしたことをあまり見つけられませんでした。私達はロシアで日本語を勉強しているので、文化も歴史もだいたい分かりますから。しかし、大学で寝ている大学生を始めて見た時、驚きました。大学生は毎日勉強熱心で、アルバイトもよくするので、授業のとき眠いです。でも、ロシアでこれはまれです。そして、日本に来て、交通はとても便利だと分かりました。新幹線はもちろん、地下鉄も、リニモも速くて、時間通りに来ます。ですから、交通費は高くても、一番好きなものになりました。

交通だけではなくて、日本の料理が好きになりました。日本の料理はおいしくて、口に合います。日本では料理が地方によって違うので、面白いです。例えば、大阪の料理はたこ焼きで、京都の特別な料理は抹茶から作られたものです。そして、名古屋の料理はきし麺です。

日本人は優しくて、好意的です。日本ではマナーが大事にされているので、日本人はいつも親切で、年上を尊重します。日本人は一般的に恥ずかしがりやで、自慢しないので、お世辞や褒められたとき、「いいえ、そんなことはない」とか「まだまだです」などと言います。これはマナーだけではなくて、自分の性格を表すことです。そして、日本人は自分の気持ちを言わなくて、不思議な人達だと思います。ですから、日本人は好きかどうか分かりにくいです。このような態度は時々困ったことになります。

日本の旅行は私の夢でしたから、今はうれしいです。日本は素晴らしくて、名物がいっぱいです。ロシアと比べて、違いがたくさんありますから、私達にとって、珍しい国です。日本には伝統的なものは近代的なものと一緒に存しているので、本当に面白いです。この留学で困ったことが起きたけど、これを解決して、いい経験をしたと思います。この留学を忘れません。

そして、機会があったら、日本にも一度行きたいです。

私の日本留学

N.

始めまして、私は二十歳のNと申します。シベリア連邦大学で３年間日本語を勉強しています。この愛知県立大学の短期留学は私の始めての日本への旅行です。私はこんな機会があって、本当にうれしいです。

私は学生として日本に来る前に大学の授業で日本文化や歴史について勉強しました。そして、インターネットで日本の音楽や映画やドラマなどについて色々な情報を探しました。それに日本についてたくさん知っていたけど、正直に言えば、日本に来たとき驚いたことがたくさんありました。そして、楽しかったことも、うれしかったこともありました。

最初に、第一印象について話したいと思います。日本に着たばかり空港で色々な手続きがありました。そして、サービスはすばらしかったです。色々なことについて教えてくれまして、お世話になりました。そして後で、私たちは空港から県大まで地下鉄や新幹線やリニモに乗りました。新幹線の切符はとても高かったですけれど、電車が速かったです。ですから、私の日本についての第一印象は「日本人は優しい人だ」、そして「日本は高いけど、交通は本当に速い」というものでした。

今は一ヶ月たったので、色々な驚いたことや楽しかったことやうれしいかったことなどがありました。驚いたことについて言えば、日本人の学生たちは授業で先生の話をちゃんと聞いてると思ったけど、学生が寝てると聞きました。本当にびっくりしました。そして、他について言えば、私は友だちと一緒に映画館に行きました。皆は静かに映画を見ていました。それはロシアと全然違います。ロシアの映画館で皆は何か食べたり、友達と小さい声で話したりします。他の驚いたことは時々リニモは回送車になります。日本では何も壊れないと思いました。

後は楽しいこととうれしいことについて話したいと思います。その事はいっぱいありましたけれど、一番印象に残っていることは名物や、映画館や、カラオケなどです。そして、食べ物です。日本食はとてもおいしいです。一番好きな食べ物は焼きそばと牛丼です。そして、他のうれしいこと言えば私が新しい友達を作ったことです。他にも、２年間会わなかった友達とも会いました。

これが私の短期留学です。この留学は本当に大切な経験です。機会があれば、もう一度学生として日本に来たいです。

私の日本留学

I.

はじめまして、シベリア連邦大学の３ 年生のIです。二十歳です。私は日本語と英語を勉強していますから、暇な時間があまりなくて、つらいですが、もっと上手になるために一所懸命に頑張らなければいけません。私の大学には二つ学期があります。従って、夏の休みと冬の休みがあります。今回、この夏は休みの代わりに留学しました。私たちは日本へ行く可能性をもらって、この留学を本当に楽しみにしていました。

私は日本へもう行ったことあるのに、またワクワクしました。2013 年３ 月の旅行は観光客として日本を訪問しましたが、今度に留学生として日本へ行きましたから、日本を初めて訪れた感じがしていました。留学のおかげで私は日本を中から見て、社会の一部になりました。留学の生活の中に私はいろいろな経験をしました。たとえば、初めて運転手がいない交通というリニモに乗ったり、一人で電車で本山駅まで行ったり（とても怖かったです！）、懐かしい友達会ったり（一緒にたくさんカラオケで歌いました！）、ホームステイの家族と一緒にひさしぶりに海で泳いだり、学生として普通の県大の授業に行ったり、見学したりしましたから、とてもうれしかったです。ですが困ったことも、もちろん、ありました。雨に降られたり、京都で迷ったり、寝坊したり、ゴミ分別をあまり分からなかったり、海でけがしたり、知らない食品を買ったり、すっごくまずくて、捨てるしか方法がなかったり・・・続けるなら、何時間がかかるだろうね。いうまでもなく、日本ではとても大事な経験をしました。失敗しても、成功しても、何があっても、私の留学はもう忘れられないものになりました。みんなさんのおかげでこの夏はいつも私の心に残っていますから、ありがとうございました。

最後に自分の決めたことを話したいと思います。留学のおかげで私は新しい友達ができて、名古屋市を発見して、日本の大学制度を分かって、いろいろな見学して、日本の夏を感じて、少しずつ日本語にうまくなっていて、日本を本当に好きになってきました。将来に私は絶対、また日本に来たいと思います。正直にいうと私は通訳者にあまりなりたくないですが、日露の関係を強くするために別の仕事したいと思います。さまざまなアイデアがあります、たとえば、ロシア料理のレストランとか、日本製化粧品のショップとか教師になるとか翻訳するとか、まだ決めていませんですが、一つだけ分かっています。日本へまた来たいんです。この夢を実現させるために一所懸命頑張ります。皆さん、私たちにこのチャンスをくれて、本当にありがとうございました。これを絶対忘れません。

私の日本留学

Ｙ．

はじめまして。私はシベリア連邦大学で日本語と英語を勉強している二年生のＹです。今日で留学の 41 日目になりました。

子どもの頃から、日本文化に興味を持っていて、できるだけ日本に関係があるもの、本とか、アニメのＣＤとかいろいろな情報などを集めました。小学校のお正月のカーニバルで母がぬった和服を着たし、壁に掛けた世界地図に行きたい日本の町というマークをつけました。そして、2011 年に、シベリア連邦大学の言語学部に入学しました。二年生の時、愛知県立大学はシベリア連邦大学と協定を締結しましたから、うれしくなりました。そのような仕事をすることが本当に難しかったそうです。その時、日本人の学生もロシア人の学生も留学することができるようになりました。よかったです。

日本について聞いたことは自分で見たことと少し違います。例えば日本人の性格です。もちろん、人々はそれぞれ性格が違うけど、ほとんどの日本人がとてもまじめで、勤勉で、上下関係を大切にしている人たちだと思いました。しかし同時に、社交的で、楽しいところもあります。国民性が違いますけど、日本人もロシア人も伝統を大事にするし、自分の歴史と先祖を敬っているのがわかりました。

そして、日本は近代的な国ですが、伝統的な料理を大切にします。西洋の影響を受けて、新しい料理を作るようになりましたが、食料の大部分がご飯と野菜と海鮮です。つまり、豊かな食生活をしているということです。それは一番長い平均寿命の１つの理由です。日本で食べた食べ物はすべておいしかったです。

さらに日本の生活について少しはなしたいと思います。驚いたことに、日本人は環境をとても大事にします。最初に、至るところ建物でいっぱいだと思いました。しかし、待ちは緑がいっぱいです。そして、県大ですべての木に種類の札がついているのにとても驚きました。

京都へ行く途中で初めて日本の美しい山を見ました。私の大好きな漫画の影響で神秘的なところというイメージを持っていましたから、いつも日本の自然を見たかったです。実際に見て、好きになりました。

留学の一番の大事な目的は勉強です。そのことについてすごく緊張しました。二年生ですから、自分の能力に自信があまりありませんでした。しかし、先生はみんな優しい人だと思います。驚いたことに、日本人の話し方は分かりやすかったですから、良かったです。その他に、勉強のプログラムはおもしろかったです。私たちは様々な講義を受けて、授業の時、日本人の学生と話して、日本の生活についてたくさんのことが分かりました。先生と先輩たちのおかげで日本語が分かるようになりました。でも、まだまだですから、帰ってから、感想を述べ合うために、１週間ぐらいかかるかもしれません。私の夢が実現したし、この夏休みは一番幸せだったと思います。留学のチャンスをもらったことと一緒に過ごした時間に心から感謝しています。このスピーチを聞いてくださいってどうもありがとうございます。

私の日本留学

Ｌ．

はじめまして。シベリア連邦大学で日本語と英語を勉強している二十歳のＬです。少し自分について言えば、しゃべりじゃなくておとなしい人だと思います。日本でみなと一緒によく遊びに行っているけれども、クラスノヤルスクで勉強の他に家からあまり出ていません。そして、今、私と一緒に留学しているロシア人は私のグループメートと一番親しい友達です。

日本に来る前に、日本と日本人について理想のイメージを持ていました。「生活のために日本は完璧な国」とか「日本人は頭がよさそうで親切」ということを思いました。これはうそとは言えませんが、すべてはそんなに完璧じゃないと分かりました。一ヶ月中、うれしいことがいっぱいあったし、困ったことも時々起きたし、それについて話したいと思います。

まず、勉強です。日本の教育制度はロシアと比べて、もっと好きになりました。慣れなかったこともありましたが、長所の方が多いです。勉強には、プレッシャーがなくて、先生たちは学生に対して優しくしていると思います。そして、試験はほとんどテストとしてやりますが、ロシアでは、口頭試験が多いです。先生の前で会話をするのは本当に大変です。そして、授業をやっているスタイルが気に入りました。先生はあまりしからなくて、学生との関係をよくしたいみたいで、雰囲気は好意的です。

勉強以外に、日本料理も好きになりました。牛丼や焼きそばや唐揚げや味噌汁やカレーライスなどすごく口に合いました。そして、あんこが入っている食べ物が大好きです。でも、納豆はやはり好きに慣れませんでした。納豆を一回食べてみて、「おかしい日本人～」と思いました。

でも、時々日本人はおかしい人だと思ったのに、仲間が結構できました。県大の学生と授業でも暇な時間にも話して、どこかへ遊びに行って本当にうれしかったです。もうそろそろロシアに帰るけれども、みなと連絡したいと思います。そして、お世話になったホストファミリーもこれから連絡します。一緒に過ごした週末は面白くて、楽しくて、有益な体験になりました。

一ヶ月を日本で過ごして、日本と日本人について意見は少し変わりましたが、その日々は心に残って、一番大事な夏休みになりました。帰ったら、また普通の日に戻るけれども、自分の将来のために頑張りたいので、日本語だけじゃなく、他の新しいこともやってみたいです。今、やる気がいっぱいですから。

私の日本留学

S.

はじめまして。私は三年生の級長のＳです。

日本語を勉強していますので、日本文化に興味があります。私は茶道や書道や花道など日本の伝統的な技術がすばらしいと思います。日本の若者の文化ではアニメや漫画が好きです。それに、日本のスポーツはきれいで、弓道や剣道などのスポーツをやっている人を見るのが好きです。

ロシア人として、私はもちろん日本のイメージがありました。日本は近代的で、きれいで、色々な機械がたくさんあって、何も壊れない国だと思っていました。日本人は全部親切で、仕事熱心で、恥ずかしがりやで、会合があればいつも時間とおり来ると考えました。

実は違いました。日本はそんな理想な国ではありません。日本のエアコンや販売機などの機械も時々壊れていて、リニモも回送になります。やはり、あまり親切ではない日本人もいると分かりました。時々、日本人は私たちについて大声で話していますから。恥ずかしくない日本人もいますね。そして、信じられないほど、授業も会合も遅刻しています。これは全部驚きました。他にも、日本の物価が本当に高いと思いますが、たぶん、給料ももっと高いかもしれません。私たちは短期留学していますので、アルバイトする機会がありませんでした。でも、勉強だけありましたから、楽しい時間を過ごしました。私は友達と一緒に散歩したり、買い物したりしました。私たちと話したい知らない人に時々会いました。その上、カラオケによく歌いに行きました。花火があった夏祭りへ行って、自分でも花火をやりました。ホームステイということもあって、日本人の家族と一緒に生活していました。この経験を絶対に忘れません。

しかし、困ったこともありました。例えば、ゴミの分別が実に問題になりました。そして、遊ぶところは 17 時ぐらい閉まりますから、ちょっと困りました。

困ったこともびっくりしたこともあっても本当に楽しくて、面白くて、いい生活でした。とても勉強になって、多分、日本語の能力が上がりました。留学で本当に大事な経験しました。先生たちにも愛知の会にも作った友達にも感謝します。ありがとうございました。

3. プログラム運営上の課題

プログラム終了後、プログラム実施、国際交流室長、シベリア連邦大学の引率職員の 4 名で、教育プログラム、事務体制、宿舎、生活全般などについて意見交換を行った。また、担当講師 3 名からも気づいた点が文書で提出された。その記録を参考にし、ここに課題をあげる。

3.1 教育プログラム

シベリア連邦大学の引率職員によれば、プログラム内容については大きく満足が得られたようである。日本語学校のような単純な知識の詰め込みではなく知的水準も高く、学生との交流を伴うといった点が高く評価された。しかし、多岐にわたる教育活動の実施において、日程や宿題の情報の混乱が生じるなど、細部においてトラブルがいくつかあった。

そのことの大きな要因として、このプログラムに関わる専属の事務職員が配置されなかったことがある。教室準備や細かい連絡、授業風景の写真撮影など、細々とした仕事を行うアルバイト職員の雇用分の経費も、今後はプログラム費に計上すべきであろう。

また別の要因として、学内宿舎におけるインターネット環境が整わないことがあげられた。プログラム初日に、学生の持参した PC やスマートフォン端末につなぐ設定の説明会を行ったにもかかわらず、学内でうまく無線 LAN に接続できなかったり、宿泊施設ではなおさら調子が悪い状況であったことが、manaba への課題アップの期限が守れなかったり、連絡が伝わらなかったりといったことにつながったようである。この件は、留学生にとって大きなストレスとなっていた。キーボードの仕様の違いもあるため、留学生受入に際してはできるだけ持参した PC が使用できる環境を整える必要があるであろう。

とはいえ、集合時間や場所といった予定変更などの緊急かつ重要な連絡は、インターネットには頼らず、たとえば国際交流室前に「掲示板」設置をするのが確実な対策だというのが、反省点としてスタッフ間であげられた。

本学学生の参加のしかたは、2.6 でも言及したように、積極的でおおむね好評であった。ただし問題点としては、ボランティアとして交流活動に登録したにもかかわらず、無断欠席が数件生じたことである。とりまとめ担当の筆者から注意の連絡をしても、そのまま返事のない学生もあり、こうした点については、社会的責任にも通じる自覚を促すための指導を事前に厳しくする必要性を感じた。7 月末が本学の前期試験週間と重なることも配慮しつつ、プログラムの日程を工夫する必要もあるのかもしれない。

3.2 運営体制

宿舎としては、学内の非常勤講師宿舎および学長公舎を利用した。到着当日、利用ルールについて事務職員より詳細に説明したにもかかわらず、後になって、ゴミの出し方など、いくつかのトラブルが生じた。決して悪意によるものではないが、今後は「常識的判断」や「口約束」には頼らず、文書で情報を伝える必要性があろう。今回は引率の職員が同伴していたが、今後は必ずしもそうではないことも考え合わせると、学生の自覚をくりかえし促すことも重要である。

また、今回のように外部団体との協力によってプログラムを実施する場合、教育プログラムに関する打合せと、事務的な連絡体制と双方に責任者を決めておかなければならないことも実感した。実施責任者が全て把握する義務はもちろんあるが、メールや電話で約束したことを失

念する場面があり、筆者自身の大きな反省点となっている。陳謝したものの、今後の交流に悪影響を及ぼさないかと心配になった。

4. まとめ

以上、全学的な取り組みとして実施された、2013 年度シベリア連邦大学短期研修受入プログラムについて、教育実践内容と大学の体制の双方について、まとめと課題を報告した。教育面から言えば、相互交流型のプログラムは、本学学生にとっても協定大学にとっても大きなメリットがある。今後、より本学の留学制度が充実するよう、派遣、受入双方の体制を強化すべく、こうした実践を重ねていく必要性があろう。